

事業主 殿  
安全衛生担当者 殿

### 三旗（安全旗、労働衛生旗、安全衛生旗）掲げかえ運動の協力のお願い

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当センターの業務運営につきましては、日ごろから格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、労働災害の減少傾向に鈍化が見られる中、新たな労働災害防止活動のツールとして労働安全衛生マネジメントシステムの構築、リスクアセスメントの定着などが急がれています。また、毎年、安全週間、労働衛生週間、年末年始無災害運動が展開されています。

しかし、安全衛生の入り口であり、また、「目で観る安全衛生」の基本である安全旗・労働衛生旗・安全衛生旗の知名度があまりにも低く、標記運動の提唱と周知を行いたいと思います。

ご多忙中と存じますが、別添資料の趣旨をご理解いただき、標記運動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

主催：中央労働災害防止協会

中国四国安全衛生サービスセンター

協力：一般社団法人 鳥取県労働基準協会

一般社団法人 島根労働基準協会

一般社団法人 岡山県労働基準協会

公益社団法人 広島県労働基準協会

一般社団法人 山口県労働基準協会

一般社団法人 徳島県労働基準協会連合会

一般社団法人 香川労働基準協会

公益社団法人 愛媛労働基準協会

一般社団法人 高知県労働基準協会連合会

別添資料

趣旨

①三旗の知名度

	安全旗	労働衛生旗	安全衛生旗
見たことがある	80～100%	0～数名	50～60%
旗の名前を言える	10～20%	1～2名	5～10%

- 各講演会時に中災防管理士が三旗の現物を提示しての挙手方法による。
- 旗の名前として質問しても、安全旗をただ「りょくじゅうじ」(マーク)と呼称する者、あるいは誤って「みどりじゅうじ」と発言する者が多い。
- 出席対象者によってこれらの数値は変化する。

②三旗掲げかえ運動の目的

重篤な労働災害が発生すると、貴重な人材“一人一人かけがえのない人”を失うこととなり、企業経営にとっても大きなマイナス要素となります。労働災害を食い止めるためには、教育活動、講演、危険予知訓練、作業環境測定などの計画的かつ継続的活動が不可欠です。

しかし、主要な労働安全衛生活動のひとつである三旗の活用方法や安全週間準備期間及び本週間、労働衛生週間準備期間及び本週間の開催時期は知られていない場合があります。人間は五感の「見ると聞く」で、大半の情報を収集することから、三旗の掲げかえを通して毎年安全週間や労働衛生週間に「見ると聞く」で再認識していただき、三旗も重要な労働災害防止のツールであることを関係者に周知し、計画的かつ継続的な労働災害防止活動に役立てていただくことを目的とします。

③三旗掲げかえ運動開始と掲げる期間

運動開始時期	平成 21 年度 4 月よりスタートし以後毎年繰り返す
安全旗	6 / 1 ~ 6 / 30 & 7 / 1 ~ 7 / 7
労働衛生旗	9 / 1 ~ 9 / 30 & 10 / 1 ~ 10 / 7
安全衛生旗	上記以外の期間

④三旗掲げかえ運動の方法

- 三旗を掲げかえる担当者を決める。
- 上記③に示した期間に三旗を会社のホール、会議など複数の人が集まる場所に掲げかえる。
- 三旗を掲げかえたら参考資料を基に、必ず朝礼などで安全週間準備期間及び本週間、労働衛生週間準備期間及び本週間になった旨を全員に周知する。
- 各週間の実施要綱などを関係者に周知し、労働災害防止活動の基礎とする。
- 参考資料などを基にして、三旗の持つ意味を周知する。

⑤三旗掲げかえ運動に望まれる効果

- 労働災害防止活動の新たな切り口として活用できる。

- 最先端で仕事をしている方たちに対しても三旗の重要性が理解される。
- 三旗の掲げかえを行うことで、事業場内の管理体制を動かすことのツールの一つにすることができる。
- 三旗が労働災害防止のツールであることが理解される。
- 安全週間準備期間及び本週間、労働衛生週間準備期間及び本週間のより一層の効果が期待できる。
- 等々

⑥三旗(安全旗・労働衛生旗・安全衛生旗)をお持ちでない方

- 地元の労働基準協会(連合会)やその支部(地区協会)、中災防中国四国安全衛生サービスセンターなどで購入できます。
- 必要な方は最後の申し込み用紙を活用ください。

⑦お問合せ先

中災防中国四国センター 電話 082-238-4707

参考資料

三旗(安全旗、労働衛生旗、安全衛生旗)について

安全旗



初の安全週間のシンボルマークとして大正 8 年に提案され、昭和 2 年 10 月の内務省社会局全国工場監督官主任会議の席上で国としても安全運動のシンボルマークとすることが了承され、広く安全週間など安全に関する行事の際に掲揚されるようになりました。十字は西洋では仁愛を意味し、東洋では福徳の集まるところを意味するそうです。安全旗は“縦(A):横(B)=1:1.5。十字の一边は1/5A。白地に、十字の色は緑色(色見本はC F 0 2 8 2またはD I C 6 3 8)です。

労働衛生旗



衛生管理者制度が発足し、全国労働衛生週間が催され労働衛生活動が活発になってきた昭和 20 年代の後半に、衛生管理者の中から労働衛生を象徴するマークを求める声が出て、昭和 28 年労働省が公募をして緑地に白十字を中央に配した労働衛生を象徴する旗が制定されました。その後、全国労働衛生週間など衛生に関する行事の際に掲揚されるようになりました。縦横の寸法比率などについては、安全旗同様です。

安全衛生旗



昭和 30 年頃から、安全と労働衛生は密接な関係にあるものとの考えが強調されるようになり、中央労働災害防止協会が公募をし、安全と衛生を一体のものとして強力に推進するためのシンボルマークとして、昭和 40 年に安全衛生旗が制定されました。縦横の寸法比率と色については安全旗同様で、白十字の一边は1/3A、緑十字の一边は1/5Aです。

全国安全週間

大正 8 年に当時の東京市で開催された安全週間の輪が年々広がり、昭和 2 年 10 月 2 日から一週間 1 道 3 府 21 県連合工場安全週間が開催された。この連合安全週間は、この種の運動を広域的実施しようとする気運を盛り上げ、11 月には九州一円と山口県の連合安全デー、福島鉱山監督局管内の鉱山安全デー、12 月には海軍所属の全鉱山、専売局所属の全事業所での安全週間などが開催された。そして、翌年には全国的に足並みをそろえ実施されることとなり、ここに全国統一の「全国安全週間」が昭和 8 年 7 月 2 日～7 日(昭和 6 年の第 4 回からは 7 月 1 日～7 日)の間「一致協力して怪我や病気を追拂ひませう」の標語(労働衛生を含めた運動であったようである)のもとに繰り広げられ、今日に至っている。

全国労働衛生週間

第二次世界大戦後、安全週間とは別に労働衛生週間を行うべきとの関係者から意見が出され、主唱母体の労働省は昭和 25 年に安全週間から分離した形で、全国労働衛生週間が実施された。最初の開催期間は 10 月 10 日から一週間だったが、第二回目からは 10 月 1 日から一週間となった。

全国安全週間&全国労働衛生週間の取り組みについて

各週間には「全国安全週間実施要綱」「全国労働衛生週間実施要綱」が示されており、これらを参考に各週間が取り組まれている。詳細については中央労働災害防止協会発行の「安全の指標」「労働衛生のしおり」などを参照してください。

参考文献

新・産業安全ハンドブック  
中央労働災害防止協会  
平成 12 年 3 月 30 日 第 1 版発行

安全衛生運動史 労働保護から快適職場への 70 年  
中央労働災害防止協会  
昭和 61 年 12 月 20 日 第 2 版発行

安全衛生用語辞典  
中央労働災害防止協会  
平成 17 年 6 月 10 日 第 1 版発行

2018 年安全衛生手帳  
中央労働災害防止協会  
平成 29 年 8 月発行

安全の指標 平成 29 年度  
中央労働災害防止協会  
平成 29 年 5 月 30 日発行

労働衛生のしおり 平成 29 年度  
中央労働災害防止協会  
平成 29 年 8 月 1 日発行

# 三旗申込書

申込日 令和 年 月 日

<お申込み先>

申込 FAXNo.  
 (        -        -        )  
 労働基準協会 (連合会)  
 支部 (地区協会) 行き

申込 FAXNo.  
 082-238-4716  
 中災防 中四国センター 行き

会社名 \_\_\_\_\_  
 住所 〒 \_\_\_\_\_  
 部課名 \_\_\_\_\_ 担当者 \_\_\_\_\_  
 電話番号 \_\_\_\_\_

旗別	No.	種別	定価 (本体価格+税 10%)	枚数	金額 (円)	旗サイズ (共通)	
						種類	サイズ(m)
安全衛生旗	41111	綿 (特大)	3,630 円(本体 3,300 円)			種類	サイズ(m)
	41112	綿 (大)	2,200 円(本体 2,000 円)			特大	1.40 * 2.10
	41113	綿 (中)	1,540 円(本体 1,400 円)			大	1.04 * 1.56
	41114	綿 (小)	1,210 円(本体 1,100 円)			中	0.86 * 1.29
	41146	アクリル生地(バンディング・大)	6,270 円(本体 5,700 円)			小	0.70 * 1.05
	41145	アクリル生地(バンディング・中)	4,730 円(本体 4,300 円)			アクリル生地・大	1.00 * 1.50
	41147	アクリル生地(バンディング・小)	3,361 円(本体 3,056 円)			アクリル生地・中	0.90 * 1.35
安全旗	41211	綿 (特大)	3,080 円(本体 2,800 円)			アクリル生地・小	0.70 * 1.05
	41212	綿 (大)	1,804 円(本体 1,640 円)				
	41213	綿 (中)	1,320 円(本体 1,200 円)				
	41214	綿 (小)	990 円(本体 900 円)				
衛生旗 労働	41312	綿 (大)	2,200 円(本体 2,000 円)				
	41313	綿 (中)	1,540 円(本体 1,400 円)				
	41314	綿 (小)	1,210 円(本体 1,100 円)				

- \* 令和元年10月1日以降のご注文分については、消費税率10%を本体価格に加算させていただきます。
- \* 上記以外の商品もありますので、総合カタログ等でご確認ください。
- \* 上記の金額以外に送料が必要です。
- \* 納期は一週間みていただければ幸いです。
- \* 旗は布製のため、サイズに多少の誤差があります。
- \* お問い合わせ 中災防中四国センター 電話 082-238-4707